

令和2年度 徳島県企業局「戦略的経営推進委員会」議事概要

- 1 日 時 令和2年8月3日（月）14時00分～15時05分
- 2 場 所 徳島グランヴィリオホテル 1階 グランヴィリオホール
- 3 出席者 <委員>
濱尾 重忠（座長）（敬称略，以下同）
粟飯原 一平
坂田 千代子
真鍋 恵美子
<企業局>
市原企業局長，林副局長，大塚次長，
古井総合管理推進センター所長
吉成経営企画戦略課長
秋田政策調査幹
大西事業推進課長
生田施設基盤整備室長
井内自然エネルギー事業化担当室長

4 会議次第

- (1) 開会
- (2) 企業局長挨拶
- (3) 議事
 - ①令和元年度決算概要について
 - ②企業局経営計画の令和元年度進捗状況及び評価について
 - ③その他

【配布資料】

- 資料1 令和元年度決算概要について
資料2 「企業局経営計画の令和元年度進捗状況及び評価」について
参考 徳島県企業局経営計画（平成29年3月策定）

5 議事概要

- (1) 議題1 令和元年度決算概要について
配布資料に基づき，事務局から説明を行い，質疑応答。
- (2) 議題2 企業局経営計画の令和元年度進捗状況及び評価について
配布資料に基づき，事務局から説明を行い，質疑応答。

< 質疑応答 >

議題 1 令和元年度決算概要について

【委員】

1 ページ目，第 1 表 令和元年度損益の工業用水道事業が前年度に比べて 204,516 千円減となっているが，収益が少なくなった理由を教えてくださいませんか。給水企業数が 33 社となっているが，このうち取引企業が変わったということはないのでしょうか。経費については抑えられていると思いますが，その辺の理由について詳しく教えてくださいませんか。

【企業局】

取引企業の変更はございません。

【委員】

企業数に変更がないのに，収益が減少したのはどうしてですか。

【企業局】

収入につきましては前年度と概ね同様です。前年度は閏年ということで 1 日多くあったため前々年度と比べると収入が 300 万円程度多くなっています。費用につきましては，松茂町の長岸水管橋の除去工事や工業用水道事業が 50 年以上経過しているため修繕費が多くかかってきております。今後数年は大きな修繕が必要となってくる状況であり，年度ごとの増減はあるかと思いますが，黒字を維持しながら定期的な修繕を行っていきたいと考えております。

【委員】

各企業の使用水量の問題なんですよ。数量的なものは分かりませんが，操業率が低下しているということなのではありませんか。

【企業局】

工業用水道事業では，責任水量制という制度をとっております。各企業の使用水量は減ってはいるかもしれませんが，企業局の収入としましては契約した水量で収入をいただいている形になっておりますので，その点では収入は変わっていないということになります。

【委員】

今期の決算自体はそれでいいと思いますが，来期には工業用水道事業や駐車場事業で新型コロナウイルス感染症の影響を受けると思います。工業用水道事業では，苦しい企業が契約水量の交渉をしてきたり，駐車場事業では，指定管理者も苦しい状況にあるのではないかと思います。これからどういうふうに対応していく方針なのかを教えてくださいませんか。

【企業局】

工業用水道事業では、契約ユーザーが厳しい状況の場合は利用料金の支払猶予等の対応をとることを考えておりますが、現時点ではそのような申入れはありません。駐車場事業につきましては、大きく利用台数が減っておりますが、指定管理者が継続して管理運営できますよう、企業局への納付金も含めて、必要な措置を講じて参ります。今後も引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響や状況を見ながら検討して参ります。

【委員】

2 ページ目の水力発電所と太陽光発電所の実績では予定供給電力量よりも実績供給電力量の方が多かったのに対し、3 ページ目の事業収益では予算額よりも実績の収入額が少なくなっているのはどうしてですか。

【企業局】

電気事業会計につきまして、予定供給電力量は令和元年度のはじめに来年度に供給できる電力量を決めたものであります。一方、収入予算額は、当該年度の発電所の状況により1 月頃に編成する2 月補正予算で補正予算を組んでおり、若干多く見込まれる予算を計上していることもあるため、そこまでの収入額には至らなかったという形でございます。

【委員】

予算額を補正時に上げたということですか。年度当初に編成したものよりもアップしたということですか。

【企業局】

そのような形になります。

議題2 企業局経営計画の令和元年度進捗状況及び評価について

【委員】

A 評価が8 5 %と非常に良い成績になっていると思います。C 評価になっている1 の「小水力発電の先導的取組」と7 の「公有林化の支援」について詳しい内容とその対策についてお聞きしたいです。7 につきましては、ここ3 年間で年間1 0 0 h a の目標を一度も達成していないということで目標自体が高すぎるのかもしれませんが、そのあたりも合わせて1 と7 のご説明をお願いします。

【企業局】

まず1の「小水力発電の先導的取組」についてご説明させていただきます。令和元年度は小水力発電施設の実証実験の中での機器の設置を目標として掲げておりました。こちらについては、取組の内容としては3点ございます。1点目は、企業局が実施することとしまして、神山町に小水力発電所を建設する、これに関しての機器の設置というものでございました。2点目は、市町村が事業主体となる小水力発電事業化プラン協働推進事業に着手し、美馬市と上勝町とともにプランを策定しているところでございます。こちらの方は事業として順調に進んでおります。3点目は、平成30年度に設置したピコ水力発電所の導入後の運用データの蓄積や導入マニュアルの策定を行いHPにて公表いたしました。この中でも1番メインとなる1点目の神山町での小水力発電所の建設事業がやむなく休止となったため、C評価とさせていただきます。

【企業局】

7の「公有林化の支援」をC評価としたことについてご説明させていただきます。企業局では、平成24年度より森づくり支援事業を開始し、ダムの上流域の豊かな水源を維持するために必要不可欠な森林環境の保全に取り組んできました。数字としてみますと、取得目標100haに対し、実績が63haとなっているためC評価とさせていただきますが、公有林化した森林は適切に維持管理がしやすいよう、すべて既存の公有林に隣接した森林であり連担取得ができています。

そして、森林の水源涵養機能の強化のためには、単に公有林化するだけでなく、取得した森林を適切に維持管理することが重要であると考えております。このため、これまで進めてきた「森づくり支援事業」の内容を見直し、森林整備支援の対象の拡充や倒木対策としての事前伐採など補助対象を拡充し、今年度より「ダム水源の森を守り育てる事業」としてリスタートしたところでございます。

【委員】

50の「未売水の低減対策」についてですが、雑用水っていうのは水の利用を目的とすることであれば何でもいいのでしょうか。どういう業種の企業を訪問されているのでしょうか。

【企業局】

17社の内訳としましては、現在利用していただいているユーザー企業を15社、新規の企業を2社訪問しました。例えば、運動公園の散水や少量の水など工業用水以外の目的で使用される水が雑用水となります。

【委員】

10の「ダム水源地域の漁業振興」についてですが、陸封アユというのは琵琶湖のアユのようなものなのでしょうか。そのあたりから仕入れてくるものなのでしょうか。

【企業局】

陸封アユについてですが、琵琶湖や三重県の七色ダムなど全国各地には陸封アユのDNAを持った実績のある稚魚がおります。川口ダムでは、ダム湖で再生を繰り返す陸封アユを試験的に研究しており、稚魚放流した形で育成できないかということをご4年間実験を続けております。

【委員】

実際に行ったことがあるのですが、丈ヶ谷川にアユはあまりいませんでした。下流は小見野々ダムですか。

【企業局】

丈ヶ谷川の下流は長安口ダムです。昨年度、丈ヶ谷川産のアユを高知県で行われている全国利きアユ大会にエントリーしたところ、準グランプリを獲得しました。地元でも丈ヶ谷川産のアユでかなり盛り上がりまして、新聞にも掲載されておりました。

【委員】

59の「制度改正等の情報収集・提案」についてですが、電力システム改革とはどのようなものですか。来期以降、収入などにどう影響あるのかを教えてください。

【企業局】

最近、電力料金は下がってきています。新型コロナウイルス感染症による需要の低下以外にも、送配電の分離や電力自由化に伴い、多くの電力会社が参入してきたことにより、競争が激化したため電力料金が下がってきています。FIT非化石市場というのは、二酸化炭素を出さないクリーンエネルギーに付加価値をつけて市場で取引するという新しい制度です。様々な制度が増えてきているため、企業局も一つ一つを研究し、新しい制度を取り入れた上で売電交渉を行っています。

【委員】

53と54の駐車場のことが心配なのですが、新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者が大きく減少していると思います。今年はキャンペーンもできないと思いますが、駅前の良い場所にあると思うので、もう少し利用していただけるように考えることはできるのかなと思います。例えば、アミコの9階に開設されたコワーキングスペースの利用者に利用してもらうために、企業にまとめて安く提供するなどしてみたら良いと思います。

【企業局】

昨年度そごうの撤退が報道されてから、指定管理者とともに顧客アンケートや駅前の利用状況の分析を行い検討を進めている最中に、新型コロナウイルス感染症が発生し、次の手を打つことが難しい状況となっています。先ほどいただいたご意見も参考にしながら、更に利用台数が増えるように指定管理者と検討を進めていきたいと考えております。

議題3 その他

【委員】

いろいろな事業をされてますが、新規事業については検討されていないのでしょうか。

【企業局】

公営企業として今後、どのような事業を展開していくのか、十分な検討を要するものと考えておりますが、今すぐに何か新しい事業というのは、考えておりません。現時点では、電気事業や工業用水道事業の施設が老朽化しているため、得た利益を修繕費に充て、しっかりと改善に取り組んで参りたいと考えております。